東恩納 拓也　HIGASHIONNA Takuya

健康科学部 リハビリテーション学科　助教

協調運動障害がある子どもの支援に関する研究

キーワード　神経発達症（発達障害），協調運動，評価，作業療法

研究内容

協調運動障害とは，いわゆる「運動の不器用さ」のことを指し，子どもたちの日常生活を妨げる要因の一つです．子どもの運動の不器用さに対する支援では，詳細な評価が困難で，園や学校，児童発達支援事業所など子どもたちにとって身近な場所でどのような支援が有効なのかについても明らかになっていない現状があります．

そこで，私は，運動の不器用さがある子どもの生活を支援するための評価尺度の開発と介入の効果検証などを行っています．これまでに，海外で開発され，運動の不器用さによる生活上の困りを評価できる尺度の日本語版を開発しました．また，本学内の放課後等デイサービスで運動の不器用さがある子どもたちに対する集団作業療法の効果検証を行うなど，運動の不器用さがある子どもへの新しい支援の開発に向けた研究を行っています．

発達性協調運動症（DCD）がある子どもの特性や支援についてまとめた一冊

関係論文，特許・著作物等の知財情報，連携の実績

- Higashionna T et al., The Relationship between Motor Coordination Ability, Cognitive Ability, and Academic Achievement in Japanese Children with Autism Spectrum Disorder and Attention Deficit/Hyperactivity Disorder. Brain Sciences. 674, 12(5), 2022.
- 東恩納拓也「運動の不器用さがある子どもへのアプローチ：作業療法士が考える DCD」クリエイツかもがわ，2022.
- 東恩納拓也「第 4 章 1『DCD のある子への支援の基本的な考え方』」,「不器用・運動が苦手な子の理解と支援のガイドブック：DCD（発達性協調運動症）入門」金子書房，2024.

社会連携・産学連携の可能性

- 神経発達症がある子どもに対する評価や介入，相談支援，地域支援に関する連携が可能です．
- 子どもの発達や生活動作の支援に関する取り組みへの連携が可能です．